

平成 30 年度
自己点検評価報告書

目白大学短期大学部

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	総括評価シート	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部
評価対象年度		平成30年度	
記入者 (評価単位責任者)	職名	学長	
	氏名	油谷 純子	

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ①平成29年度に引き続き授業改善に取り組みアクティブ・ラーニングの授業への定着が図れてきている。
- ②授業参観（教員相互での実施）も定着した。
- ③資格取得は順調に推移し、日本語検定は準2級に2名、サービスマークeting検定1級に2名、国内旅行業務取扱管理者に2名、リテールマーケティング検定1級に6名の合格者を出すことができた。製菓学科においては製菓衛生師に平成30年度に引き続き全員合格の結果を出すことができた。
- ④基礎学力の向上を目的としてリメディアル教育としての公文式英語学習を実施し、20名の学生が取り組み成果を上げた。

【研究】

- ①学会発表：7件、論文投稿：4件と平成30年度に比べ増やすことができた。
- ②短期大学部のPD活動として、構成員全員による研究発表を実施した（研究に対する意識啓発に寄与したと考えられる）。
- ③科研費学内助成1件、競争的外部資金2件を獲得している。
- ④紀要の投稿論文を増やすことができた。

【学生指導】

- ①学生個々人の出席、成績、就職活動等の状況を学科教員で情報の共有化を図った。クラス担任、ゼミ担任だけではなく、複数の教員で学生の状況を把握するシステムを構築した。
- ②インターンシップへの参加を促し、ビジネス社会学科ではほぼ全員、他学科においても多数の学生に体験させることができた。

【社会貢献】

- ①短大主催の地域貢献として「公開講座」を実施し、多くの参加を得た。
- ②学会活動では、平成31年度実施の日本ビジネス実務学会全国大会の会場校としての準備を実施した。
- ③高校への出前講座等を実施した。
- ④包括連携先の西武信用金庫、社会法人三篠会とのイベントへの学生、教員の参加、東京都洋菓子協会の活動への協力等を実施した。

【組織マネジメント】

- ①学科編成の変更（ビジネス社会学科と生活科学科の内容の統合）平成31年度への学科定員の変更等に向けての準備を行った。
- ②効率的な組織運営を試みて会議の議題の事前配布等を実施した。
- ③学科長連絡会を実施し、学科間の意思疎通を細やかに図った。

(2) 今後の課題

【教育】

- ①事前・事後学習の課題は徐々に定着しつつあるが、その検証が実施されていない。今後は実態を把握し、定着を図るための方策を検討する。
- ②ビジネス社会学科のカリキュラムが生活科学科の内容を取り込んだものとなっているため、スムーズな学科運営に注力する。
- ③製菓衛生師コースの新たなカリキュラムをスムーズに実施する。
- ④生活科学科の募集停止に伴い、最終学年の学生の卒業に注力する。

【研究】

- ①短期大学部紀要への投稿を促し、充実した紀要の発行を目指す。
- ②競争的資金獲得を目標とする。
- ③教育研究を共同で行う体制を構築する。

【学生指導】

- ①中退予防に注力する。
- ②学力不足する学生への個人的な指導を強化する。
- ③予約型奨学金獲得し入学した学生の成績を注意深く見守り指導を行う。また、経済的困難な学生を把握し、細かな相談に乗る。

【社会貢献】

- ①産学共同に向けて学科、短期大学部として活発な活動を目指す。製菓学科の目玉である米屋、矢祭町とのプロジェクトが一段落し、今後は新たなプロジェクトを施行する必要がある。
- ②公開講座を引き続き実施し、動員数を増やす方策を検討する。

【組織マネジメント】

- ①効率的な会議運営を行う。事前資料配布等の工夫をする。
- ②提案型の構成員を育てる方策を検討し、実施する。情報の共有を重点課題とし、委員会の報告等をタイムリーに行う仕掛けを構築する。
- ③歯科衛生学科が発足するため、既存学科との協働を積極的に行う。

【その他】

- ①助手の新任が増えるため（製菓学科：1名、歯科衛生学科：1名、ビジネス社会学科1名の新人）しっかり教育し、支障なく学科運営のサポートができる人材に育てる。
- ②学生募集に教職員全員が力を合わせ定員確保に努める。OC等の効果的な運営、その他高校訪問も検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	短期大学部 生活科学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①主な検定の取得状況 日本語検定：3級に2名、準2級に2名 漢字検定：2級に1名 秘書検定：2級に14名 ビジネス文書検定：3級に47名 サービス接遇検定：1級に1名、準1級に44名 リテールマーケティング検定：3級に6名 ファッション販売能力検定3級：4名合格 ⇒平成30年度はサービス接遇検定1級に合格者を輩出したことが特筆できることである。</p> <p>②リメディアル教育 平成30年度から新たに公文式英語学習を導入し、生活科学科1年生1名が参加した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①来年度は生活科学科は2年生のみとなった。新1年生は生活科学科系のカリキュラムが新カリキュラムにあり、生活科学科2年生の旧カリキュラムと複雑な状態となっている。生活科学科2年生がスムーズに履修できるような体制を整える。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学会発表・論文投稿 学会発表、論文投稿ともに今年度はなかった。</p> <p>②科研費及びその他の競争的外部資金獲得 科研費及びその他の競争的外部資金獲得も今年度はなかった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新年度は旧生活科学科に残る教員が2名となるが、ビジネス社会学科と合同の形で学会発表や論文投稿、科研費及びその他の競争的外部資金獲得を目指していく。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1年次に退学を視野に入れていた学生を無事に卒業させることができた。</p> <p>②1年次はクラスによって退学者の数に差があった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成30年度は退学者の数が10名と多くなってしまった。これ以上の退学者が出ないように努力する。 具体的には、ビジネス社会学科が昨年度から実施しているFD委員会（学生動向調査）でより細かく学生の状況を把握することと、学生の変化を早期に発見し、教員間で情報の共有を行っていく。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①短期大学部公開講座に生活科学科の白井講師が担当する講座を行った。</p> <p>②桐和祭で先川教授による「もの作り体験教室」を実施した。 今年度は粘土を使用したもの作りも加わったため幼児連れの参加者が増え、大盛況となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新年度はビジネス社会学科との合同での社会貢献活動を行っていく。 ・具体的には、短期大学部主催「公開講座」へのビジネス社会学科の講座実施を検討していく。 ・産学協同のイベントを実施する。 ・学会活動（役員や大会の実施等）の充実を目指す。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1年生担任は、多数の人数を抱えながらのクラス運営となった。また、生活科学セミナーについては非常勤講師が担当するクラスもあり、専任教員と連携をとりながら進めていった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新年度はビジネス社会学科との合同での組織体制となる。 ・学生、非常勤講師、専任教員へのフォロー体制を確実に実行していく。 ・生活科学科在学生の学生生活の満足度を向上させるための方策を検討する。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①2020年度は生活科学科の最終年度となる。2年生が満足して卒業できるようにきめ細かく指導とフォローを行っていく。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①生活科学科の2020年度の募集は停止となるが、卒業生とのつながりを強化する。それにより、在学生の就職先の確保や、知人の入学促進に結びつける。そのための手段として「ホームカミングデー」の実施を検討する。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	短期大学部 製菓学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓衛生師関連科目に関しては、目標としていた全員合格が達成でき、試験前の補講も含め、すべての担当教員の成果である。</p> <p>②実習科目に関しては、履修人数に偏りが生じるため、事前に内容や進捗を調整してスムーズな授業展開が出来た。</p> <p>③製パン関連科目については、資料を配るだけでなく、画像や映像などを使用し授業内容を充実させることができた。</p> <p>④和菓子1年生春学期の実習と理論を連動したことで成果を出すことができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①1年生春学期の実習に関しては年度によっても異なるが、授業時間の配分がスムーズではなく、もう少し余裕のできる内容への見直しが必要である。</p> <p>②必修の講義授業では学生の興味喚起に努めているがまだ十分ではない。また和菓子2年生では個人作業が多くなる秋学期に個人差がでる。引き続き課題である。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①自己の技術の探求と研鑽また学生へのコンクール出品への意欲喚起を目標としたアメ細工の作品を制作し学内展示をした。また短大FD活動としてその製作過程をまとめた内容を発表した。(砂盃)</p> <p>②日本食育学会第6回学術大会に参加ポスター発表実施した。短大紀要55号に単著論文を投稿した。(平田)</p> <p>③技術の向上に関して研究発表で報告した針を利用した製法を、より活用しゼミ指導に充てられるよう準備を進めている。(伊藤)</p> <p>④自家焙煎酵母でのパン製造、株式会社サンフルート依頼による新素材のテストベーキングを行った。(根本)</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新素材「りんご精」を使用したパンのテストベーキングを行ったが、新素材を使用する優位性が顕著に現れず商品化には至らなかった。</p> <p>②新たなチョコレート工芸菓子の技術向上に取り組み小型ピエスを製作したがコンクール出品には至らなかった</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1年生の指定校推薦合格者から1名中退者が出たが授業参加が1週間程度とほとんど参加しないまま退学希望の連絡があったため学科としての不備があったとは考えにくく、本人の届け出通り進路変更ということで処理された。2年生は1名卒業延期者が出たがこちらについても担任として本人との面談を繰り返し保護者にも複数回電話連絡を入れた結果の欠席オーバーであったためやむをえないと考える。</p> <p>②製菓衛生師試験に向け、試験対策、模擬テストを行い専門知識を深めることに努め全員が合格することができた。</p> <p>③製パン分野のインターンシップ受け入れ企業の拡充をすることができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①就職活動支援に関しては目標としていた内定100%には至らず(3月中旬)、キャリアセンターと連携した更なる支援に努めたい。</p> <p>②教員同士が連携し授業時の様子や欠席状況、その他各学生との面談などを行い学生動向のケアを行ったが欠席超過により再履修となる学生がおり今後の課題としたい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①包括連携協定先である西武信用金庫との連携事業、第12回東京物産・逸品見本市のタブロイドチラシに1年生が食レポとして掲載されたほか、当日の販売にも学生がボランティアとして参加した。</p> <p>②東京都洋菓子協会の活動として実施している「親子ケーキ教室」では昨年度より参加人数も増え社会貢献に結びついてるといえる。</p> <p>③短大「公開講座」の開催は予定通り実施できた。同時に製菓学科の存在と製菓全般の指導と周知は図れた。</p> <p>④地域貢献活動として実施している「親子体験教室」は計画通りの達成状況であり、学生にも社会とつながる経験としてよい効果をもたらしている。またリピーターも多いが毎年参加の親子も必ずいることを鑑み普及はできている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①米屋株式会社と矢祭町との三者コラボによる「短期大学部ひとくち羊羹」第2弾新味開発は、矢祭町のフルーツ加工業者施設が米屋株式会社の衛生規格に合わずプロジェクトは中止となったが振り返りが必要である。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科ブログ管理運営については例年同様実施できた。</p> <p>②入学者募集を目的とした体験実習は継続実施され、受験者の約4割が参加していた。</p> <p>③次年度入学者の定員が充足できたことは成果といえるが引き続き継続できるよう努めたい。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①製菓衛生師試験に向けて教員一丸となり対応出来たが、願書申請の部分で若干不備が生じたので次年度の課題としたい。</p> <p>②次年度入学者に関しては定員は確保できたものの魅力ある学科運営を目指す上では現状では厳しいことは否めないもので引き続き検討していきたい。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①大学全体でのSDGsに関する取り組みの冊子刊行企画において、短大の記事作成を担当している。</p> <p>②製菓学科教員が担当している各委員会、センター員は滞りなく務めている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①助手の選考並びに採用に関しては特異な分野であることを踏まえ慎重かつ早期に適材の確保が必要と考える。</p> <p>②毎年桐和祭開催にあたり多数の卒業生が来校するが、卒業生の為のコミュニティスペースを確保したい。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	短期大学部 ビジネス社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①主な検定の取得状況 日本語検定：準2級に3名 秘書検定：1級に1名、2級に27名 ビジネス文書検定：3級に56名 サービス接遇検定：準1級に50名 リテールマーケティング検定：2級に29名、1級に6名 国内旅行業務取扱管理者：2名合格 ⇒平成30年度は国内旅行業務取扱管理者に始めて合格者を輩出したことと、リテールマーケティング検定1級の合格者が過去最高となったことが特筆できることである。</p> <p>②リメディアル教育 平成30年度から新たに公文式英語学習を導入し、ビジネス社会学科1年生15名が参加した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①資格取得の奨励：特に日本語検定2級の合格者を増やす。 ②リメディアル教育の徹底：入学後も続く「メジプロ（ステップアップコース）」の100%達成を目指す。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学会発表・論文投稿 学会発表：6件（日本ビジネス実務学会3件、秘書サービス接遇教育学会1件、日本地理学会1件、地理情報システム学会1件） 論文投稿：3件（短期大学部紀要3件） ⇒論文の投稿が昨年度1件から3件と大幅に増加した。</p> <p>②科研費及びその他の資金獲得 科研費学内助成1件：400千円、競争的外部資金獲得2件：18,230千円 ⇒競争的外部資金獲得が2件あり獲得し金額も18,230千円となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①論文投稿が短期大学部紀要のみだったため、学会誌への投稿を目指す。 ②科研費の獲得が平成30年度はかなわなかったため、次年度の獲得を目指す。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成30年度から毎月の学科会議のあとに学生動向調査のためのFD委員会を開き、1、2年生含めての全学生の状況を学科教員全員で共有している。</p> <p>②1、2年生ともに担任、ゼミ担任が学生と面談することで、個々の学生の状況を把握している。</p> <p>③スポーツフェスティバルや桐和祭などの学校行事も積極的に参加することで、学校への帰属意識を高めている。</p> <p>④1年次のインターンシップはほぼ全員が行い、2年次の就職活動についてはゼミ担任が個々の学生の状況を細かく把握した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①退学率の低減：昨年度から実施しているFD委員会（学生動向調査）でより細かく学生の状況を把握することと、学生の変化を早期に発見し、教員間で情報の共有をしていく。 ②学修意欲の低い学生へのフォロー強化：学習意欲の低い学生や、学修能力が不足している学生の発見と、学科としてどのようなフォローができるかを検討していく。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学会活動：秘書サービス接遇教育学会（会長）、日本ビジネス実務学会第38回全国大会（副事務局長）など学会活動での主要な業務を担った。</p> <p>②「社会福祉法人三篠会」や「薬師あいロード商店街」との協賛による地域活性化プロジェクトを運営した。</p> <p>③西武信用金庫主催の「極鮮物産・逸品見本市」のパンフレットへの取材と記事の投稿、イベントでのスタッフなどを行った。</p> <p>④文京区本郷法人会主催「財務諸表の読み方」の指導を行った。</p> <p>⑤東京都立農芸高等学校での「流通業講座（リテールマーケティング）」の指導を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①短期大学部主催「公開講座」へのビジネス社会学科の講座実施を検討する。 ②平成30年度も実施した産学協同を来年度も実施する。 ③学会活動（役員や大会の実施等）の充実を目指す。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員間の情報共有：学科会議のとどまらず、必要に応じて教員同士がコミュニケーションできる体制を整えた。それにより、1年の担任だったときの学生の状況と2年のゼミでの状況が確認でき、就活指導等に生かすことができた。</p> <p>②全てのオープンキャンパスに学科の教員全員が参加するなど、学科全体で来年度の学生確保に努力することができた。</p> <p>③学科の教員が少なく委員会を掛け持ちする教員もいる中で、教員同士で協力し学科運営していくことができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①2019年度の新入生が定員を確保できなかったため、2020年度の入学について確実に定員を確保できるための方策を検討する。 ②旧生活科学科の学生、非常勤講師、専任教員へのフォロー体制を確実に実行していく。 ③学科の専任教員が1名増えたことで、学科内の業務分担を見直し、より充実した学科運営（カリキュラム、委員会、学生指導など）を目指す。 ④入学者数の増加、在学生の学生生活の満足度向上のための戦略的な方策を検討する。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①インターンシップやキャリアデザインなど、個々の担任の専門分野に合わせて企業開拓を行ったり、就活に向けての学生指導を行うことができた。</p> <p>②今年度も桐和祭で「ビジネス社会学科ホームカミングデー」を実施したが、例年以上に卒業生が集まってくれた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①定員の確保を目指して、あらゆる手段を講じる。具体的には、AO1期、2期でのエントリー数を40名近くにするのを目指す。そのためには、オープンキャンパスの集客促進を図るため、ホームページ等への記事掲載の増加、来校した高校生への再来校促進のためのアプローチ等を行っていく。 ②卒業生とのつながりを強化する。それにより、在校生の就職先の確保や、知人の入学促進に結びつける。そのための手段として「ホームカミングデー」の充実を目指す。</p>			